

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
人間と情報	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0, 第4次産業革命, データ駆動型社会「人間と情報」第2回 ・ビッグデータ, AI, 生成AI, IoT「人間と情報」(第2回)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー, レコメンデーション)「人間と情報」第8回 ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル, 強化学習, 転移学習, 生成AIなど)「人間と情報」第8回
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ, 実験データ, 人の行動ログデータ, 機械の稼働ログデータなど「人間と情報」第3回 ・1次データ, 2次データ, データのメタ化「人間と情報」第3回 ・構造化データ, 非構造化データ(文章, 画像/動画, 音声/音楽など)「人間と情報」第3回
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「人間と情報」第7回 ・仮説検証, 知識発見, 原因究明, 計画策定, 判断支援, 活動代替, 新規生成など「人間と情報」第7回
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測, グルーピング(クラスタリング), 最適化, アルゴリズム「人間と情報」第4回 ・データの可視化技術「人間と情報」第4回, 第5回 ・非構造化データ処理(自然言語処理, 画像/動画処理, 音声/音楽処理など)「人間と情報」第6回 ・特化型AIと汎用AI, 今のAIで出来ることと出来ないこと, AIとビッグデータ「人間と情報」第6回
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスサイクル「人間と情報」第7回 ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「人間と情報」第7回

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) 「人間と情報」第14回 ・個人情報保護, EU一般データ保護規則(GDPR), 忘れられる権利, オプトアウト 「人間と情報」第14回 ・データ倫理: データのねつ造, 改ざん, 盗用, プライバシー保護 「人間と情報」第14回 ・AI社会原則(公平性, 説明責任, 透明性, 人間中心の判断) 「人間と情報」第14回 ・データバイアス, アルゴリズムバイアス 「人間と情報」第14回
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性) 「人間と情報」第14回 ・匿名加工情報, 暗号化と復号, ユーザ認証 「人間と情報」第14回 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 「人間と情報」第14回
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数) 「人間と情報」第9回 ・代表値(平均値、中央値、最頻値) 「人間と情報」第9回 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) 「人間と情報」第9回 ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値) 「人間と情報」第10回 ・相関と因果 「人間と情報」第11回
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、箱ひげ図) 「人間と情報」第4回, 第5回, 第10回, 第11回, 第13回 ・データの比較 「人間と情報」第10回, 第11回, 第13回 ・不適切なグラフ表現の例 「人間と情報」第10回, 第11回, 第13回
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・表形式のデータ(csv)の扱い 「人間と情報」第12回 ・データの並べ替え 「人間と情報」第12回 ・データの集計 「人間と情報」第12回

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・多種多様なデータをもとに特徴を捉えて推し量ることができる
- ・最新の技術動向を理解し、デジタル化に対応することができる
- ・実社会とのつながりを意識し、課題に取り組むことができる

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
モデルカリキュラムの導入において、生成AIに関する活用事例や実際に使用する体験をさせた(「人間と情報」第8回)。さらにモデルカリキュラムの心得において、データ・AIを扱う上での留意事項として生成AIのリスクや注意点(レポート作成などにおける生成AIの利用上の注意など)も説明した(「人間と情報」第14回)。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
食物栄養学科	66	80	160	64	63											64	40%
幼児教育学科	87	80	160	86	86											86	54%
経営情報学科	91	110	220	90	89											90	41%
健康福祉学科	23	40	80	23	23											23	29%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	267	310	620	263	261	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	263	42%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	42%	令和6年度予定	85%	令和7年度予定	86%
令和8年度予定	87%	令和9年度予定	88%	収容定員(名)	620

具体的な計画

令和5年度からプログラムを開始したので、履修率は1年生を対象に算出している。プログラムを構成する授業は全学科必修科目として位置づけているので、今後は履修率が向上することを見込んでいる。令和6年度は265人の1年生が履修していることを確認でき、履修者数は265(令和6年)+263(令和5年)=528となるので、履修率は $(528/620) \times 100 = 85\%$ となる。次年度以降は学生が増える見込みのある2学科のうち、いずれかの学科で学生が増えると仮定した以下の計算による履修率の向上を計画している。

- ・令和7年度： $(1\text{年生}267\text{名} + 2\text{年生}265\text{名}) / 620\text{名} = 86\%$
 - ・令和8年度： $(1\text{年生}270\text{名} + 2\text{年生}267\text{名}) / 620\text{名} = 87\%$
 - ・令和9年度： $(1\text{年生}273\text{名} + 2\text{年生}270\text{名}) / 620\text{名} = 88\%$
- 今後も全学科必修を変更することは予定していない。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

令和5年度から各学科の教養必修科目として1年次の前期に開講し、1年生全員がオンライン形式で受講可能となる体制を構築している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

プログラムを開始するにあたり、全学科の学生にノートパソコンを必携化することを周知する際にその利用がプログラムの授業に必要であることを説明している。また、本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムのウェブページ(<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/tc-mdash.html>)でも情報を公開して、できる限り多くの学生に周知している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

プログラムの授業は全学科の1年生を対象に必修科目として開講しているため、各学科のオリエンテーションにおける履修登録の指導の際に徹底して履修指導を行っている。履修登録の確認はプログラムの授業の第2回に、全学科の学生が履修登録しているかどうかを履修者名簿を使って行っている。

各学科で出席回数や課題の提出回数などが少ない学生に対して、プログラムの授業担当者が本人へ連絡して修得させるための支援を行っている。場合によっては該当学生の担任と情報共有し、担任の教員からも該当学生に修得させるための支援に協力を求めることもある。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

オンラインによる授業中の質問はzoomのチャットを利用するか、経営情報学科以外の3学科は学内の各教室でノートパソコンを持ち込んで授業を受けているが全員がzoomに接続しているとは限らないので、各教室を巡回する教職員が質問を受け付けて担当教員へ連絡する体制も構築している。各教室にあるスクリーンにzoomの画面を投影しているため、担当教員は質問に対してzoomで回答する。担当教員は授業の最後に質問を受け付ける時間を設け、各教室で質問がないかどうかを確認するために巡回していた。

授業時間外の対応は授業終了後にWebシラバスのアンケートで質問を受け付け、その回答を次の授業開始時に行うようにしている。また、オフィスアワーでも対面形式で質問を受け付けている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

富山短期大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会

(責任者名) 春名 亮

(役職名) 准教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>全学科1年生が前期に教養必修科目の「人間と情報」を履修し、その単位の取得をプログラムの修得としている。履修登録の確認期間中に教務部の協力を得て履修漏れがないことを2023年4月19日の講義で確認できている。追再試の成績評価が終了した時点で、退学や休学などの理由以外でプログラムの単位が必要な履修者が無事に1年次前期で修得条件を満たした。</p>
学修成果	<p>健康福祉学科の成績評価を2023年8月7日までに提出することが条件であったため、その時点での成績評価は講義最終回で提出することになっていた特別課題が未提出だった7名(退学や休学を希望する可能性があった学生も含む)を除いて、修得条件を満たしていた。特別課題の未提出者は最終回以外の講義に対する課題への取り組みは不十分であった。不可になった7名のうち3名が追再試を申込み、該当者に課題を提出させて再評価した結果は単位認定の基準を満たし、プログラムの単位が必要な履修者全員が修得したことにより、学修成果を適切に評価できているといえる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業アンケートの問3「この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についてどの程度理解できましたか。」において、(4)で授業の内容に関する理解度を問う項目があり、「大変良く理解できた」および「よく理解できた」を合わせて回答率が9割を超えていたので、多くの学生が理解できていると考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>該当科目が必修となっていて後輩等他の学生への推奨は特に必要ではないが、総合評価値は満足度を表す指標でもあると考えられ、それが3.48であったことにより後輩等他の学生への推奨度は高い可能性があると考えられる(総合評価値の上限は4.0)。「大変良かった」および「良かった」を合わせた回答率が9割を超えていて、上述に示した「大変良く理解できた」および「よく理解できた」と同様の傾向があり、「大変良く理解できた」および「よく理解できた」の満足度が高くなったと考えられる。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>該当科目はプログラム修得において必修となっていて全学科の1年生が履修し、それを今後も継続させる。各学科の総合評価値を安定させるためにも全学科1年生の必修科目として開講することが必要であると考えられる。</p>
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>令和5年度からプログラムを開始したところであり、プログラム修了者が地域のそれぞれの組織(企業、自治体、団体等)で数理・データサイエンス・AIを活用することが期待され、今後は学生が就職した組織の意見も聞きながら、プログラムの改善を検討する。</p> <p>本学は「一般社団法人富山県経営者協会IT・インフラ部会」に加入していて、その意見交換会などが年2回開催されている。令和5年度は「生成AIの利用」に関する議論を部会で行い、その際に参加している企業に本学の取り組みを説明し、2社から意見をいただいた(以下は2社の評価を要約した内容)。 演習課題の材料が学生の方々の接する地元の実データを活用して、データやデジタルの活用で社会の課題を解決する力を身に着けていく貴学の教育は即戦力として社会に貢献できるようなIT人材の育成に対応可能だと考えられます。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>授業アンケートにおいて、授業形態・方法に関する質問が9個あり、「体験的な学習(実習、実験、フィールドワーク等)の機会があった」に注目すると、約8割の学生が満足できていたと考えられるので、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させている授業であったと考えられる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業アンケートにおいて、授業形態・方法に関する質問は学修成果を高めるためにどのような工夫がなされていたかどうかを9問の回答状況で把握することができ、教材の工夫に関する評価が最も高かったので内容・水準が適切であったと判断し、「分かりやすい」授業であったと考えられる。</p> <p>生成AI等の技術の発展への対応として、モデルカリキュラムの導入において生成AIに関する話題の提供や実際に生成AIを利用する機会を設けるようにする。さらにモデルカリキュラムの心得において、データ・AIを扱う上での留意事項として生成AIのリスクや注意点なども理解させ、授業内容を継続的に見直す取り組みを検討し教育効果の高まる授業を目指す。</p>

授業科目名	人間と情報			科目コード	X511-14				
科目区分	教養科目 - 教養科目 - 人文科学系		担当教員名	春名 亮					
実務経験									
開講時期	1年前期		授業の方法	講義					
必修・選択	必修		単位数	2単位					
前提科目(知識)			後継科目	情報処理演習 (食栄・健福) 情報データ科学(経情)					
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼教：コミュニケーションと情報 ・ 経情：ITリテラシー，情報処理概論，データ活用基礎演習，大学教育と学修(第12回) 								
資格等 取得との関連	本講義は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に関連し、令和6年に認定されれば「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」のリテラシーレベルの修得を証明する修了証を令和6年度後期に配布する。								
授業の概要	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」におけるリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ってデータの利活用、そのために必要な人工知能(AI)に関する素養を理解させ、社会の課題解決のために多様なデータを分析する技術やそれを適用して得られた結果に基づく思考・判断力を向上させる。								
学習目標	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルの習得を目指し、社会のあらゆる分野で必要とされるデータ・人工知能(AI)の利活用に関する基本的な考え方を理解させる。								
キーワード	数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDASH)、データサイエンス、人工知能(AI)、ビッグデータ、デジタルトランスフォーメーション(DX)								
テキスト・ 参考書等	【使用教科書】 吉岡剛志(編著)「基礎学習 AIデータサイエンスリテラシー入門」(技術評論社) 【参考書】								
学修成果	学生が獲得するべき具体的な成果								
LO-1	データの種類やデータ・AIの利活用方法などに関する知識の理解度を評価するための基準								
LO-2	Excelを用いてデータを活用・分析する技能を評価するための基準								
LO-3	社会の動向に素早く対応し、多様なデータを分析する技術やそれを適用して得られた結果に基づく思考・判断力を評価するための基準								
LO-4	AI初級教育の内容を学ぶことに対する積極性を評価するための基準								
LO-5	総合課題での取り組みにおいて、データをもとに解決策を考える過程に必要な社会性を評価するための基準								
評価方法 / LO (学修成果)	筆記試験		提出課題		成果発表	その他			合計
	定期試験	小テスト	レポート	作品		A	B	C	
総合評価(割合)		25	45	15		15			100
LO-1		25							25
LO-2			15	15					30
LO-3			20						20
LO-4						15			15
LO-5			10						10
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回～第6回，第9回～第13回においてExcelを使った「実習」形式によるアクティブラーニングを行う ・ LO1の小テスト：70点満点を2.8でわって25点満点で評価(Excelの関数を使って整数化する) ・ LO4における「その他A」の評価：ウェブシラバスアンケート回答(1点×15回) ・ 作品：Excelで作成した図表を作品として扱い，ウェブシラバスで数回提出させる。 								

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス(プログラム認定制度の概要説明、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義など) 小テストのイメージ	
	【予習】 Excelは使いませんが、テキストp.38のStep1 ~ p.39のStep1 までを必ず読んでおくこと(フライングして実行してもOKです)。 ・テキストp.2「はじめに」、各章の概要が書かれているページ(p.7, p.37, p.165)を読んでおくこと。 ・シラバスをよく読んでおくこと。	90分
	【復習】数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)モデルカリキュラム-データ思考の涵養-を読むこと。 明日朝9時までに小テストを解答してください(終了)。	90分
第2回	社会で起きている変化 【キーワード】5G, Society5.0, 第4次産業革命, モノのインターネット(IoT), ビッグデータ, デジタルトランスフォーメーション(DX), スマートシティー, SDGs, ウェルビーイングなど	
	【予習】・【キーワード】に示している全ての用語の意味を調べながら、テキストp.8~p.13を読んでおくこと。 ・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。	90分
	【復習】・Google Formsによる小テスト(解答期限は22日まで)を必ず解答すること。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「社会で起きている変化」を読むこと。	90分
第3回	社会で活用されているデータ 【キーワード】調査データ, ログデータ, 実験データ, 観測データ, 1次データ, 2次データ, メタデータ, オープンデータ 講義中に利用するデータ	
	【予習】・【キーワード】に示している全ての用語の意味を調べながら、テキストp.14~p.17を読んでおくこと。 ・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。	90分
	【復習】・Google Formsによる小テストを必ず解答すること(解答期限:4月29日まで)。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「社会で活用されているデータ」を読むこと。	90分
第4回	データ・AI活用のための技術(1): 構造化データの可視化(1) Excelによるグラフ作成の基礎(テキスト2-1-4, 2-1-5節) 講義中に利用するデータ	
	【予習】・テキストp.21~23(地図上の可視化), p.49~54を読んでおくこと。 ・「令和5年度学生のしおり」(p.11~12)を読んでGPA制度を理解しておくこと。 ・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。	90分
	【復習】・講義中に行った作業を再度自分でも確認すること。 ・Google Formsによる小テストを必ず解答すること。 ・e-Statなどで自分が関心を持ったデータを探して可視化してみる。	90分
第5回	データ・AI活用のための技術(1): 構造化データの可視化(2) 前回の内容に関する質問などへの回答 講義中に利用するデータ	
	【予習】テキストp.55~71を読んで、自分でもExcelを使って取り組むこと。	90分
	【復習】・講義中に行った作業を再度自分でも確認すること。 ・Google Formsの小テストを解答すること。 ・e-Statなどで自分が関心を持った時系列データを探して可視化してみる。	90分
第6回	時系列データの可視化(テキスト2-2節) 講義中に利用するデータ データ・AI活用のための技術(2): 非構造化データの扱い方, AIの仕組み(機械学習・深層学習) 【キーワード】自然言語処理, ニューラルネットワーク, 機械学習, 深層学習, 特化型AI, 汎用AI	
	【予習】・【キーワード】に示している全ての用語の意味を調べながら、テキストp.23~p.26を読んでおくこと。 ・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。	90分
	【復習】・Google Formsによる小テストを必ず解答すること。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「データ・AI活用のための技術」を読むこと。	90分
第7回	データ・AIの活用領域と各々の現場(テキスト1-3, 1-5節) 前回の内容に関する質問などへの回答	
	【予習】・テキストp.18~20, p.27~33を読んでおくこと。 ・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。	90分
	【復習】Google Formsによる小テストを必ず解答し、数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「データ・AIの活用領域」, 「データ・AI活用の現場」を読むこと。	90分
第8回	データ・AI活用の最新動向 前回の内容に関する質問などへの回答 【キーワード】ビジネスモデル, シェアリングエコノミー, レコメンデーション, EC, 敵対的生成ネットワーク, ディープフェイク, 強化学習, 転移学習	
	【予習】・【キーワード】に示している全ての用語の意味を調べながら、テキストp.8~p.13を読んでおくこと。 ・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。	90分
	【復習】・Google Formsによる小テストを必ず解答すること。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「データ・AI活用の最新動向」を読むこと。	90分
第9回	データを読む・説明する(1)[2023.6.12差替え]: データの種類, 平均値の求め方など, テキスト2-3節「平均の算出とその可視化」もし時間があれば 【キーワード】定量(量的)データ, 定性(質的)データ, 計量データ, 計数データ, 名義尺度, 順序尺度, 間隔尺度, 比率尺度, 母集団, 標本	
	【予習】・【キーワード】に示している全ての用語の意味を調べておくこと。 ・テキストp.72~83(コラム)を読んでおくこと。 ・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。	90分
	【復習】・Google Formsによる小テストを必ず解答すること。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「データを読む」を読むこと。 Excelファイル(mean.xlsx)の提出について: 締切は17日, 課題提出の1へ	90分
第10回	データを読む・説明する(2)[2023.6.19差し替え]: 標準偏差の求め方, 箱ひげ図作成, 相関関係など 講義中に利用するデータ 前回の内容に関する質問などへの回答	
	【予習】・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「データを説明する」を読むこと。	90分
	【復習】・Google Formsによる小テストを解答すること。 ・講義中に行った作業を再度自分でも確認すること。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムで公開されている九大の教材「データのばらつき」を読むこと。	90分

第11回	データを読む・説明する(3)[2023.6.27差し替え]：データの予測、標準偏差の可視化(テキスト2-4節) 講義中に利用するデータ 前回の内容に関する質問などへの回答	
	【予習】・テキストp.84～97を読んで、自分でもExcelを使って取り組むこと。 ・第4回の「R4.12～R5.2月の北陸地方における降雪量・最深積雪」のデータを使った散布図作成を復習しておくこと。	90分
第12回	【復習】・Google Formsによる小テストを解答すること。 ・講義中に行った作業を再度自分でも確認すること。 ・e-Statなどで自分が関心を持ったデータを探して散布図を作成してみる。	90分
	データを説明する・データを扱う・データを読む 1) テキストデータをExcelに読み込む 2) 集計表の作成・可視化など	
第13回	【予習】講義スライドのpdf資料を読みながら、自分でもExcelを使って取り組むこと。	90分
	【復習】・Google Formsによる小テストを解答すること。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「データを扱う」を読むこと。	90分
第14回	第9回～第12回までのまとめ 講義中に利用するデータ 終了後に課題提出の1へ 前回の内容に関する質問などへの回答	
	【予習】第9回～第12回までの内容を復習しておくこと。	90分
第15回	【復習】・Google Formsによる小テストを解答すること。 ・講義スライドのpdf資料を読みながら、講義中に行った作業を再度自分でも確認すること。	90分
	データ・AI活用における留意事項(テキスト第3章) 講義中に利用するデータ 前回の内容に関する質問などへの回答	
第16回	【予習】・【キーワード】に示している全ての用語の意味を調べながら、テキストp.8～p.13を読んでおくこと。 ・講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。	90分
	【復習】・Google Formsによる小テストを必ず解答すること。 ・数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムの公開教材「データ・AI活用における留意事項」を読むこと。	90分
第17回	全体の総括 前回の内容に関する質問などへの回答	
	【予習】講義スライドのpdf資料を読んでおくこと。特に「データリテラシー」の部分は、九大が数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアムで公開している教材「データの種類」を読むこと。	90分
第18回	【復習】・Google Formsの確認テストを解答すること。 ・テキスト第1章および第3章の「用語解説」にあがっている用語を全て見直すこと。 もしスマホやパソコンで解答できない人は右をクリック 小テスト問題 [解答はメール(件名:人間と情報小テスト14)で提出]	90分

学修成果別評価基準(ルーブリック)

5段階評価基準	S	A	B	C	F
LO-1	データの種類やデータ・AIの活用方法などに関する知識を抜群に理解している。	データの種類やデータ・AIの活用方法などに関する知識を十分に理解している。	データの種類やデータ・AIの活用方法などに関する知識を普通に理解している。	データの種類やデータ・AIの活用方法などに関する知識を微妙に理解している。	データの種類やデータ・AIの活用方法などに関する知識が不十分。
LO-2	Excelを用いてデータを分析する技能は教材などが不要で抜群に使えるレベル。	Excelを用いてデータを分析する技能は教材などを見れば十分に使えるレベル。	Excelを用いてデータを分析する技能は教材などを見れば普通に使えるレベル。	Excelを用いてデータを分析する技能は教材などを見れば微妙に使えるレベル。	Excelを用いてデータを分析する技能が不十分。
LO-3	社会の動向に素早く対応し、多様なデータを分析する技術やそれを適用して得られた結果に基づく思考・判断力が抜群である。	社会の動向に素早く対応し、多様なデータを分析する技術やそれを適用して得られた結果に基づく思考・判断力が十分である。	社会の動向に素早く対応し、多様なデータを分析する技術やそれを適用して得られた結果に基づく思考・判断力が普通である。	社会の動向に素早く対応し、多様なデータを分析する技術やそれを適用して得られた結果に基づく思考・判断力が微妙である。	社会の動向に素早く対応し、多様なデータを分析する技術やそれを適用して得られた結果に基づく思考・判断力が不十分。
LO-4	AI初級教育を学ぶことに対してとても積極的である。	AI初級教育を学ぶことに対してかなり積極的である。	AI初級教育を学ぶことに対して一応積極的である。	AI初級教育を学ぶことに対してかなり消極的である。	AI初級教育を学ぶことに対してとても消極的である。
LO-5	総合課題での取り組みにおいて、データをもとに解決策を考える過程での社会性はとても良識的である。	総合課題での取り組みにおいて、データをもとに解決策を考える過程での社会性は良識的である。	総合課題での取り組みにおいて、データをもとに解決策を考える過程での社会性は常識的である。	総合課題での取り組みにおいて、データをもとに解決策を考える過程での社会性はやや常識的である。	総合課題での取り組みにおいて、データをもとに解決策を考える過程での社会性が不十分(非常識)である。

食物栄養学科教育課程

(令和5年度入学生に適用)

区分	授業科目	講義 演習 実習 の別	単位数		担当教員名 ()内は 非常勤講師	毎週授業時間数								資格取得に必要な 単位数		備考		
			必修	選択 (注1)		1 学 年		2 学 年		栄養士	栄養教諭							
						前期 必 選	後期 必 選	前期 必 選	後期 必 選									
教 養 科 目	現代社会と人間Ⅰ	講	1		担当教員	1												
	現代社会と人間Ⅱ	講	1		担当教員	1											(集中講義)	
	人間と情報	講	2		春名	2												
	コミュニケーション論	講	2		(黒川光)	2												
	国語表現法	演	1		(奥野)	2												
	心理学の基礎	講	2		樋口									2				
	日本国憲法	講	2		(彼谷)	2									2			
	基礎化学	講	1		藤田	1												
	情報処理演習Ⅰ	演	1		(太田由)	2									1			
	情報処理演習Ⅱ	演	1		(太田由)			2							1			
	ビジネススキル演習	演	1		中根					2								
	運動と健康	講	1		(神野)	1									1			
	健康スポーツ	実技	1		小椋	2	2								1	前期もしくは後期 どちらかの履修		
	英語Ⅰ	演	1		望月	2									1			
	英語Ⅱ	演	1		望月 (スキヤンラン)		2								1			
	キャンパス & ホームステイプログラム	演	2		望月												(集中講義)	
	教養演習	演	1		大森・ 1年担任	2												
とやまの食文化	演	1		中根												(集中講義)		
教養科目計			7	16		7	13	2	4	0	2	0	2	12	12			
専 門 科 目	社会生活と健康	食生活論	講	1		大森	1							1	1			
		公衆衛生学	講	2		角田				2				2	2		☆(注3)	
		社会福祉概論	講	1°		(清水)					1			1	1		☆(注3)	
	人体の構造と機能	解剖生理学	解剖生理学	講	2		(成瀬・杉森)		2					2	2			
			解剖生理学実験	実	1°		川口					3		1	1			
		運動生理学	講	1°		小椋							1	1	1			
		病理学	講	2°		(山本)			2					2	2			
		生化学	生化学Ⅰ	講	2		藤田				2				2	2		
			生化学Ⅱ	講	1°		藤田							1	1	1		
生化学実験	実		1°		藤田							3	1	1				

区分	授業科目	講義 演習 実習の別	単位数		担当教員名 ()内は 非常勤講師	毎週授業時間数								資格取得に必要な 単位数		備考
			必修	選択 (注1)		1 学 年				2 学 年				栄養士	栄養教諭	
						前期 必 選	後期 必 選	前期 必 選	後期 必 選	前期 必 選	後期 必 選					
専 門 科 目	食品と衛生	食品学実験	実	1	竹内	3								1	1	
		食品学総論	講	2	竹内			2						2	2	
		食品学各論	講	2	竹内					2				2	2	
		食品加工学	講	2	竹内						2			2	2	
		食品衛生学	食品衛生学	講	2	角田			2					2	2	
			食品衛生学実験	実		1°	角田					3		1	1	
	栄養と健康	栄養学	栄養学総論	講	2	藤田			2					2	2	☆(注3)
			応用栄養学Ⅰ	講	2	大森			2					2	2	
			応用栄養学Ⅱ	講		1°	大森						1	1	1	
			応用栄養学実習	実		1°	大森						3	1	1	
		臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	講	2	伊藤					2			2	2	
			臨床栄養学Ⅱ	講		1°	伊藤					1		1	1	
			臨床栄養学実習	実		1°	伊藤				3		1	1		
	栄養の指導	栄養指導論	栄養指導論Ⅰ	講	2	(三田)	2							2	2	
			栄養指導論Ⅱ	講		2°	(三田)				2			2	2	
			栄養指導論実習	実		1°	安嶋					3		1	1	
			公衆栄養学	講		2°	(加藤)						2	2	2	
	給食の運営	調理学	調理学	講	2	半田	2							2	2	
			調理学実習Ⅰ	実	1	半田	3							1	1	
			調理学実習Ⅱ	実	1	中根	3							1	1	
			調理学実習Ⅲ	実	1	中根・半田			3					1	1	
			調理学実験	実		1°	中根						3	1	1	
	給食管理	給食管理	講	2	太田裕			2					2	2		
献立作成実習		実		1°	太田裕				3			1	1			
給食管理実習		実		1°	太田裕・中根					4		1	1			
給食管理校外実習		実		2°	太田裕							2	2	※(注2)		
総合	栄養士総合演習	演	1	食物専任教員						2						
卒研	卒業研究	演	2	食物専任教員						4						
専 門 科 目 計			34	22		14	0	15	7	8	18	8	14	53	53	
総 計			41	38		21	13	17	11	8	20	8	16	65	65	

(注1) 単位数の選択欄の°印は、栄養士養成課程履修細則第7条の別表に定める科目であり、栄養士養成課程の卒業に必要な単位である。
(注2) 備考欄の※印については別紙「給食管理校外実習を履修するにあたっての留意事項」参照。
(注3) 社会福祉主事任用資格を取得しようとする者は、☆印の科目の単位を全て取得すること。

幼児教育学科教育課程

(令和5年度入学生に適用)

区分	授業科目	講義 演習 実習 の別	単位数		担当教員名 ()内は 非常勤講師	毎週授業時間数				資格取得に 必要な単位数			備考			
			必修	選択 (注1)		1 学 年		2 学 年		幼 免	保 育 士	社 会 福 祉 主 事 任 用				
						前 期 必 選	後 期 必 選	前 期 必 選	後 期 必 選							
教 養 科 目	日 本 国 憲 法	講	2		(彼 谷)				2			2	2			
	国 際 情 勢	講		2	(未 定)						2			A		
	自 然 と 人 間	講		2	(岩 坪)						2	1	1	B		
	現代社会と人間Ⅰ	講		1	担当教員		1							C		
	現代社会と人間Ⅱ	講		1	担当教員		1									
	国 語 表 現	講	2		(奥 野)			2				2	2			
	コミュニケーションと情報	講	2		吉牟田	2						2	2			
	人 間 と 情 報	講	2		春 名	2										
	英 語 Ⅰ	演	1		望 月 (ディヴィッド・ホースリー)			2				1	1			
	英 語 Ⅱ	演	1		山 田 (シェリー・スキャンラン)				2			1	1			
	キャンパス&ホームステイプログラム	演		2	山 田											
	運 動 と 健 康	講	1		(大 門)	1						2	1			
	健 康 ス ポ ー ツ	実技	1		塩 見	2							1			
基 礎 演 習	演習	1		四杉(専任教員全員)	2											
計			13	8		9	2	4	0	4	0	0	4	11	11	
専 門 科 目	保育の本質・目的に関する科目	保 育 原 理	講	2		石 動	2					2	2	2		
		教 育 原 理	講	2		四 杉	2					2	2	2		
		子ども家庭福祉	講	2		明 柴	2					2	2	2		
		社 会 福 祉	講	2		(村 上)			2			2	2	2		
		保 育 者 論	講	2		明柴・山田					2	2	2			
		子ども家庭支援論	講		2	石 動						2		2		
		社会的養護Ⅰ	講	2		明 柴			2				2	2		
	保育の対象の理解に関する科目	子どもと社会	講	1		四 杉					1	1	1			
		保育の心理学	講	2		嶋 野	2					2	2			
		子ども家庭支援の心理学	講	2		嶋 野			2				2			
		子どもの保健	講	2		松 居	2					2	2			
		子どもの健康と安全	演		1	松 居				2				1		
		教 育 相 談	演		1	嶋 野					2	1	1			
		子どもの食と栄養Ⅰ	演	1		(大 掛)	2					1	1			
	保育の内容・方法に関する科目	子どもの食と栄養Ⅱ	演		1	(大 掛)				2		1	1			
		子どもの理解と援助	演		1	嶋 野				2		1	1			
		教 育 課 程 論	講	2		石 動			2			2	2			
		保育内容総論	演		1	日 光				2		1	1			
		子どもと健康	演	1		塩 見				2		1	1			
		保育内容(健康)指導法	演		1	塩 見					2	1	1			
		子どもと人間関係	演	1		石 動				2		1	1			
		子どもと環境	演	1		(谷内口)					2	1	1			
		子どもと言葉	演	1		日 光			2			1	1			
		保育内容(言葉)指導法	演		1	日 光				2		1	1			
子どもと音楽表現		演	1		難 波			2			1	1				
保育内容(音楽表現)指導法		演		1	難波・(大村)				2		1	1				
子どもと造形表現		演	1		中 山			2			1	1				
保育内容(造形表現)指導法		演		1	中 山				2		1	1				
子どもと遊び		演	1		中山・石動・日光 難波・塩見					2	1	1				
子 育 て 支 援		演		1	明 柴						1	1				
乳 児 保 育 Ⅰ	講		2	石動・松居	2						2					
乳 児 保 育 Ⅱ	演		1	石 動				2			1					
特別支援論Ⅰ	演	1		明柴・(河崎)			2			1	1					
特別支援論Ⅱ	演	1		嶋野・(北川)				2		1	1					
社会的養護Ⅱ	演		1	明 柴				2			1					
教 育 方 法 論	講		2	四 杉						2	2	2				

区分	授業科目	講義 演習 実習 の別	単位数		担当教員名 ()内は 非常勤講師	毎週授業時間数								資格取得に 必要な単位数			備考		
			必修	選択 (注1)		1 学 年				2 学 年				幼 免	保 育 士	主 任 任 用 社 会 福 祉			
						前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期						
						必 選	必 選	必 選	必 選	必 選	必 選	必 選	必 選						
専 門 科 目	保育 の 表 現 技 術	音楽表現技術Ⅰ	演	1	難波(大村・ 大林・玉井・櫻井)	2									1	1			
		音楽表現技術Ⅱ	演	1	難波(大村・ 大林・玉井・櫻井)			2							1	1			
		音楽表現特講	演		1	(大村・大林)							2						
		造形表現技術Ⅰ	演	1		中山	2								1	1			
		造形表現技術Ⅱ	演	1		中山						2			1	1			
		子どもの運動	演	1		塩見			2						1	1			
	保 育 実 習	保育 実 習	教育実習Ⅰ	実	2	難波・石動・松居 嶋野・四杉	5※								2			※	学内幼稚園実習
			教育実習Ⅱ	実	2	嶋野・松居					※				2			※	学外幼稚園実習
			教育実習指導	実	1	専任教員全員					1	1	1						「教育実習Ⅰ・Ⅱ」終了後に認定
			保育実習Ⅰ-1	実	2	日光・中山				※						2			※
保育実習Ⅰ-2			実	2	明柴・塩見				※						2			※	施設実習
保育実習指導Ⅰ			演	2	専任教員全員		2	2							2				「保育実習Ⅰ」終了後に認定
保育実習Ⅱ			実	2	中山・日光					※					2			D	※ 保育所実習 「保育実習Ⅱ」終了後に認定
保育実習指導Ⅱ			演	1	中山・日光					2※					1				
保育実習Ⅲ			実	2	塩見・明柴					※					2			D	※ 施設実習 「保育実習Ⅲ」終了後に認定
保育実習指導Ⅲ		演	1	塩見・明柴					2※					1					
総 合 演 習	保育・教職実践演習	演	2	明柴・嶋野 四杉・日光							2	2	2						
	総合演習	演	2	専任教員全員					2	2	2	2						通年	
計			39	38		16	7	22	8	6	17	9	17	53	70	8			
総計			50	46		25	9	25	8	10	17	9	21	64	81	8			

〔注〕1. 上記教養科目のA, B, C, 3科目の中から1科目以上(計1科目1単位以上)を選択するものとする。

〔注〕2. 保育士資格取得希望者はD・D' いずれか1科目を履修すること。

〔注〕3. 「保育士資格取得に必要な単位数」欄に単位数が記入されている授業科目については、学則第12条の6(外国の短期大学における授業科目の履修等)の規定は適用しない。

なお、学則第12条の3(他の短期大学又は大学における授業科目の履修等)、第12条の4(短期大学又は大学以外の教育施設等における授業科目の履修等)、第12条の5(入学前の既修得単位の認定)及び第21条(転学)の規定については、「指定保育士養成施設指定基準」(平成15年12月9日雇児発第1209001号厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知)に定める範囲内において通用することがある。

経営情報学科教育課程

(令和5年度入学生に適用)

区分	授業科目	講義演習実習の別	単位数		担当教員名()内は非常勤講師	毎週授業時間数				資格認定に関わる科目					備考				
			必修	選択		1学年		2学年		ビジネス実務士	上級ビジネス実務士	情報処理士	上級情報処理士	秘書士		ウエブデザイン実務士	図書館司書		
						前期	後期	前期	後期										
教養科目	現代社会と人間Ⅰ	講	1		担当教員	1												※ 資格認定に関わる科目 資格認定には、詳細規程がある。 必ず、必修・選択、単位数等を確認すること。 【●】資格認定 必修科目 【○】資格認定 選択科目 ※ 図書館司書 別途定める図書館司書課程の科目(24単位)の履修および単位取得を要する。 ※ 令和6年度は非開講	
	現代社会と人間Ⅱ	講	1		担当教員														
	図書館概論	講	2		東野	2													
	大学教育と学修	講	2		全専任教員	2													
	ITリテラシー	演	1		小西	2					○	○	●	●					
	人間と情報	講	2		春名	2													
	日本語表現	講	2		(奥野)	2					○	○	●	○					
	表現・コミュニケーション技法	講	2		高木			2			○	○	○	○	●				
	現代社会とメディア	講	2		森井泉				2										
	生涯学習概論	講	2		東野・(篠田)・(明石)														●
	運動と健康	講	1		小椋	1													
	健康スポーツ	演	1		小椋・(立島)			2											
	小計		7	12			7	5	2	2	0	2	0	2					
	外国語科目	総合英語Ⅰ	演	1		山西													
総合英語Ⅱ		演	1		(ホズリー)	2		2											
英語リーディング特講Ⅰ		演	1		山西			2											
英語リーディング特講Ⅱ		演	1		山西				2										
キャンパス&ホームステイプログラム		演	2		望月														
中国語Ⅰ		演	1		(湯)			2											
中国語Ⅱ		演	1		(湯)				2										
中国語Ⅲ		演	1							2									
中国語Ⅳ		演	1											2					
小計			2	8			2	4	2	4	0	2	0	2					
教養演習Ⅰ	演	1		全専任教員	2						●	○	○	●	○				
教養演習Ⅱ	演	1		全専任教員			2				●	○	●	●	○				
教養科目計		11	20			11	9	6	6	0	4	0	4						
専門科目	経済学の基礎	講	2		長田	2						●	●	○	○			※ 集中講義 (四年制大学への編入学希望者が履修すること)	
	日本経済論	講	2		長田			2				○	○	○	○				
	金融論	講	2		(篠田)				2			○	○	○	○				
	国際経済論	講	2							2		○	○						
	経営学の基礎	講	2		井坂	2						●	●	○	○				
	現代企業と社会	講	2		山下			2				●	●		●				
	マーケティング演習	演	1		山下				2			○	○						
	経営管理論	講	2		山下					2		○	○						
	経済・経営学特講	演	1		井坂		2												
	経済学特講	演	1		長田			2											
	経営学特講	演	1		山下				2										
	図書館制度・経営論	講	2		東野					2									●
	小計		4	16			4	2	0	6	0	8	0	4					
会計科目	会計学Ⅰ	講	2		藤野	2						○	○	○	○			※ 原価計算・原価計算演習・財務会計・財務会計演習についてはP.46〔1年次単位認定者が履修できる2年次配当の会計関連科目〕も参照のこと。 ※ 集中講義	
	会計学Ⅱ	講	2		藤野			2				○	○	○	○				
	簿記論	講	2		藤野	2						○	○	○	○				
	簿記演習Ⅰ	演	1		藤野			2				○	○	○	○				
	簿記演習Ⅱ	演	1		藤野				2										
	原価計算	講	2		(飯野)					2		○							
	原価計算演習	演	1		(飯野)					2									
	財務会計	講	2		(飯野)					2									
	財務会計演習	演	1		(飯野)					2									
	管理会計	講	2		藤野						2		○						
会計学特講	演	1		藤野				2											
小計		4	13			4	0	0	4	0	8	0	6						

区分	授 業 科 目	講義 演習 実習の別	単位数		担当教員 名() 内は非常 勤講師	毎週授業時間数				資格認定に関わる科目					備 考 ※ 資格認定に関わる科目 資格認定には、詳細規程がある。 資格認定には、必修・選択、単位数等を確認 すること。 「●」 資格認定 必修科目 「○」 資格認定 選択科目					
			必 修	選 択		1 学年		2 学年		ビ ジ ネ ス 実 務 士	上 級 ビ ジ ネ ス 実 務 士	情 報 処 理 士	上 級 情 報 処 理 士	秘 書 士		ウ ェ ブ デ ザ イ ン 務 士	図 書 館 司 書			
						前 期	後 期	前 期	後 期											
ビジネス実務・キャリア科目	ビジネス実務演習Ⅰ	演	1		森井泉	2						●	●	●	○	○				
	ビジネス実務演習Ⅱ	演	1		森井泉		2					●	●	●	○	○				
	ビジネス実務演習Ⅲ	演		1	森井泉				2			●	●	○						
	ビジネス実務活用演習	演	1		森井泉				2			●	●	○						
	ビジネス英語Ⅰ	演		1	山西				2			○								
	ビジネス英語Ⅱ	演		1	山西					2		○								
	キャリア・デザイン講座	演	1		高木	2						●	●		●					
	キャリア形成支援講座	演	1		高木		2								○					
	秘書実務演習Ⅰ	演		1	高木					2					●					
	秘書実務演習Ⅱ	演		1	高木						2				●					
	インターンシップA	演		1	森井泉・高木				1			○	○	○	○	○				
	インターンシップB	演		2	森井泉・高木				2			○	○	○	○	○				
インターンシップC	演		3	森井泉・高木				3			○	○	○	○	○					
小 計			5	11		4	0	4	6	0	6	2	4							
専門科目 情報科目	情報処理概論	講	2		春名	2						○	○	●	●		●			
	情報データ科学	講	2		春名			2				○	○	●	●					
	情報システム論	講	2		小西					2		○		○		○				
	図書館情報技術論	講	2		東野・春名			2										●		
	情報サービス論	講	2		東野				2									●		
	日本語文書処理演習Ⅰ	演		1	(太田)	2						○	○	○	○					
	日本語文書処理演習Ⅱ	演		1	(太田)			2				○	○	○						
	日本語文書処理演習Ⅲ	演		1	(太田)				2			○		○						
	データ活用基礎演習	演		1	田中	2						○	○	●	●	○	○			
	データ活用応用演習	演		1	田中			2				○	○	●	●	○				
	データ分析基礎演習	演		1	田中				2			○		○	○					
	データ分析応用演習	演		1	田中					2		○		○	○					
	ビジネスデータ活用演習	演	1		田中					2		○		○	○					
	データベース基礎論	講	2		田中				2			○		○	○					
	プログラミング基礎論	講	2		小西			2				○	○	○	○					
	プログラミング演習Ⅰ	演		2	小西				2			○	○	○	○					
	プログラミング演習Ⅱ	演		2	小西					2		○	○	○	○					
	ウェブデザイン論	講	2		(太田)					2				○		●				
	ウェブデザイン基礎演習	演		1	春名			2								●				
	ウェブデザイン応用演習Ⅰ	演		1	小西				2							●				
ウェブデザイン応用演習Ⅱ	演		1	小西					2						●					
ウェブプログラミング演習Ⅰ	演		1	春名					2						●					
ウェブプログラミング演習Ⅱ	演		1	春名					2						●					
小 計			3	30		2	4	0	12	0	14	2	12							
専門演習Ⅰ	演	1			全専任教員					2				●	●					
専門演習Ⅱ	演	1			全専任教員						2			●	●					
専門科目計			18	70		14	6	4	28	2	36	6	26							
総 計			29	90		25	15	10	34	2	40	6	30	29	46	25	41	17	17	5

※ インターンシップ A, B, C 企業等の実習に参加する。

※ 資格認定領域は設定科目数

健康福祉学科教育課程

(令和5年度入学生に適用)

区分	授業科目	講義演習実習の別	単位数		担当教員名 ()内は非常勤講師	毎週授業時間数				資格取得に必要な科目										備考			
						1 学 年		2 学 年		介護職員初任者研修	社会福祉主事任用	ウオーキングトレーナー	介護福祉士受験	アクティビティワーカール	初級/中級/上級指導員	運動介護予防	福祉作業士	ケアマネージャー	日商PC検定		介護福祉経営士	社会福祉士編入	
						前	後	前	後														
						必	選	必	選														
健康	健康福祉論	講	1		小 椋	1																	8回
	運動と健康	講	1		小 椋	1																	8回
	健康スポーツ	演	1		小 椋	2																	
	アクティビティ概論	講		2	小 椋																		
人間と社会	人間の尊厳と自立	講		2	吉牟田				2														
	現代社会と人間Ⅰ	講		1	担当教員	1																	8回
	現代社会と人間Ⅱ	講		1	担当教員	1																	8回
	コミュニケーション論	講	2		小 平	2																	
	チームマネジメントの基礎	講		2	小 平				2														
	人間と情報	講	2		春 名	2																	
	情報処理演習Ⅰ	演	1		吉牟田	2																	
	情報処理演習Ⅱ	演	1		吉牟田				2														
ボランティア演習	演	1		関				2															
外国語	英語	演	1		山西(ホズリー)	2																	
	キャンパス&ホームステイプログラム	演		2	山 田				2														
小 計			12	10		14	2	4	2	0	4	0	2										
専門福祉分野	介護福祉論Ⅰ	講	2		奥 野	2																	
	介護福祉論Ⅱ	講	2		関			2															
	チームワークと多職種連携	講		2	井 上				2														
	感染症予防とリスクマネジメント	講		2	(平 田)				2														
	介護従事者の安全	講		2	(矢 後)				2														
	介護予防論	講		2	小 椋				2														
	コミュニケーション技術Ⅰ	演	1		関	2																	
	コミュニケーション技術Ⅱ	演	1		(定塚・山崎)	2																	
	生活支援技術Ⅰ	演	2		井 上	4																	
	生活支援技術Ⅱ	演	2		井 上				4														
	生活支援技術Ⅲ	演		2	中島・(松島)				4														
	生活支援技術Ⅳ	実	1		(大掛)・(川端)				3														
	生活支援技術Ⅴ	実	1		井上・奥野				3														
	生活支援技術Ⅵ	演	1		奥 野				2														
	介護過程Ⅰ	演	1		井 上	2																	
	介護過程Ⅱ	演	1		井 上				2														
	介護過程Ⅲ	演	2		奥 野				4														
	介護過程Ⅳ	演	1		奥 野				2														
	実習指導Ⅰ	演	1		井上・中島・関・小椋・奥野	2																	
	実習指導Ⅱ	演	1		井上・中島・関・小椋・奥野				2														
実習指導Ⅲ	演	1		奥野・中島・関・小椋・井上				2															
実習指導Ⅳ	演	1		奥野・中島・関・小椋・井上				2															
基礎実習Ⅰ-1	実	1		井上・中島・関・小椋・奥野	*																		
基礎実習Ⅰ-2	実	1		井上・中島・関・小椋・奥野				*															
介護計画実習	実	3		井上・中島・関・小椋・奥野				*															
介護過程実習	実	3		奥野・中島・関・小椋・井上				*															
総合実習	実	2		奥野・中島・関・小椋・井上				*															
こころからの学び	こころからの学びⅠ	講	2		中島(白井)	2																	
	こころからの学びⅡ	講	2		(白 井)	2																	
	こころからの学びⅢ	講	2		(白 井)				2														
	こころからの学びⅣ	講	2		(白 井)				2														
	発達と老化の理解Ⅰ	講	2		(谷)	2																	
	発達と老化の理解Ⅱ	講	2		(山 本)				2														
	認知症ケア論Ⅰ	講	2		中島(白井)				2														
	認知症ケア論Ⅱ	講	2		井上(松島)				2														
	障害者ケア論Ⅰ	講	2		中 島	2																	
	障害者ケア論Ⅱ	講	2		中 島				2														
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講	4		中島・松居				4														
	医療的ケアⅡ	演	1		中島・松居				4														

富山短期大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進委員会規程

(設置目的)

第1条 富山短期大学教授会規程第6条の規定に基づき、全学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関する事項について協議するため、推進委員会（以下「委員会」という。）を置き、その運営方法等を規定することを目的とする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項で全学科にまたがる事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（以下「プログラム」という。）の学修内容について
- (2) プログラムの授業科目構成及び修了要件について
- (3) プログラムの改善について
- (4) 国が推進するプログラムの認定制度に関することについて
- (5) その他プログラムに関する事項について

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長及び教務部次長(教員)
- (2) 各学科の教務委員
- (3) 教務入試課長及び教務課員 各 1 名
- (4) 教務部長が必要と認める教職員 若干名

(任期)

第4条 前条第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員長は、委員の互選により選任する。

2 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことができない。
- 3 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めて、意見を聴くことができる。
- 5 会議で審議した内容については、教務委員会、及び教授会において審議し、了承を得るものとする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教務入試課において処理する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

富山短期大学自己点検・評価等に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、富山短期大学（以下「本学」という。）の教育研究水準の向上を図り、かつ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動及び管理運営等の状況について、自ら行う点検・評価、外部評価並びに相互評価及び認証評価機関による第三者評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

(自己点検・評価委員会)

第2条 本学に次の各号に掲げる事項について点検・評価を行うとともに、これを審議するため、富山短期大学自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 本学の教育理念及び目標等に関する事
- (2) 本学の将来構想に関する事
- (3) 学生の選抜方法に関する事
- (4) 学生の学園生活に関する事
- (5) 教育活動に関する事
- (6) 研究活動等に関する事
- (7) 教員組織に関する事
- (8) 事務組織に関する事
- (9) 国際交流に関する事
- (10) 地域社会への貢献に関する事
- (11) 管理運営・財政に関する事
- (12) 施設整備に関する事
- (13) 自己点検・評価体制に関する事
- (14) 外部評価並びに相互評価に係る企画・立案、実施及びその結果の公表に関する事
- (15) 第三者評価への対応及びその結果の公表に関する事
- (16) その他委員会が必要と認める事項

2 前項各号に掲げる事項に係る具体的な点検・評価項目は、委員会が別に定める。

(委員会組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 教務部長
- (4) 学生部長
- (5) 事務部長
- (6) 附属図書館長
- (7) 各学科長及び専攻科（以下「科」という。）長
- (8) 学長補佐室長
- (9) 各次長
- (10) 就職支援センター長及び各課長
- (11) その他学長の指名する者

(委員任期)

第4条 前条第6号に定める委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、学長をもって充てる。
- 3 委員会に委員長が指名する副委員長を置くことができる。
- 4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(自己点検・評価結果の対応等)

第6条 委員会は、自己点検・評価の結果を年次報告書(以下「報告書」という。)に取りまとめ、公表する。

- 2 学長は、委員会が行った自己点検・評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについては、その改善に努める。
- 3 学長は本学が設置する各種委員会(以下「各種委員会」という。)において、改善策を検討することが適当と認められるものについては、当該委員会に付託する。
- 4 学長は、自己点検・評価の結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては、当該科長にその改善の検討を求めることができる。

第7条 外部評価並びに相互評価は、本学の自己点検・評価の一環として、学外者によって本学が行った点検及び評価に係わる報告書等に基づき、本学全体の評価及び検証を行う。

- 2 外部評価並びに相互評価の実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。
- 3 委員会は、外部評価並びに相互評価の結果を公表する。

(第三者評価及び結果の対応等)

第8条 第三者評価を受けるにあたっては、認証評価機関の第三者評価実施要項等に基づき、委員会が実施に関する必要な事項を別に定める。

- 2 各部・館、各科及び各種委員会による点検及び評価の結果は、委員会が定める期日までに報告しなければならない。
- 3 委員会は、第三者評価の結果に基づき、広く周知を図ることができる方法により、その結果を学内外に公表する。
- 4 学長、各部・館の長、各科長及び各種委員会の長は、第三者評価の結果に基づき、改善を要するものについて、速やかにその改善に努めなければならない。

(部会)

第9条 委員会に、次の表の左欄に掲げる部会を置き、これらの部会の所掌業務は同表の右欄に掲げるとおりとする。

名 称	所 掌 業 務
I R 推進部会	本学の教育研究活動及び管理運営等に関する情報を収集・分析することによる大学の機関研究(I R)の推進に関すること
教育改革推進部会	教育の質向上と質保証の徹底のための全学的な教育改革の推進に関すること
外部資金獲得活用部会	外部資金の獲得・活用に関すること

- 2 前項に掲げる各部会の委員は、委員長が指名する。
- 3 各部会に部会長を置き、当該部会に属する委員の互選により選任する。
- 4 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、学長補佐室において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、自己点検・評価に関する必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則（平成18年 9 月14日公布）

- 1 この規程は、公布の日から施行する。
- 2 平成 9 年 7 月14日施行の「富山短期大学自己点検評価に関する委員会規程」は、廃止する。

附 則

この規程は、平成25年 9 月19日から施行する。

附 則（平成26年 7 月10日公布）

この規程は、公布の日から施行する。

附 則（平成27年 3 月 6 日公布）

この規程は、公布の日から施行する。

附 則（平成 27 年 7 月 9 日公布）

この規程は、公布の日から施行する。

附 則

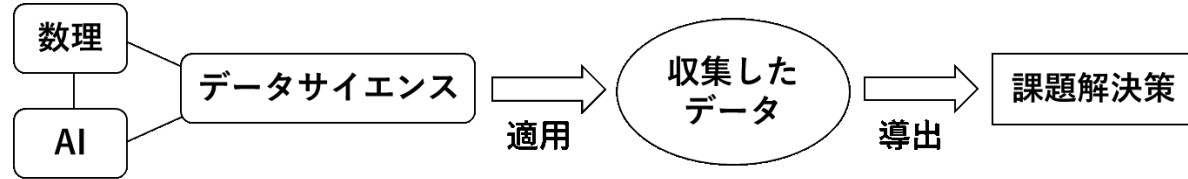
この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

大学等名	富山短期大学
教育プログラム名	データ・AI・情報リテラシープログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和 6 年度

取組概要

本学では研究や業務などのために収集したデータを数理的に捉えてAI・データサイエンスの技術を適用し、得られた情報を課題解決へ活かせるようになることを目的とする教育プログラムとして「**データ・AI・情報リテラシー**」を令和5年度から開始



下線部はプログラムの目的、上図は<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/tc-mdash.html>から引用
上記URLでも本学の取組概要を令和5年度から公開している。

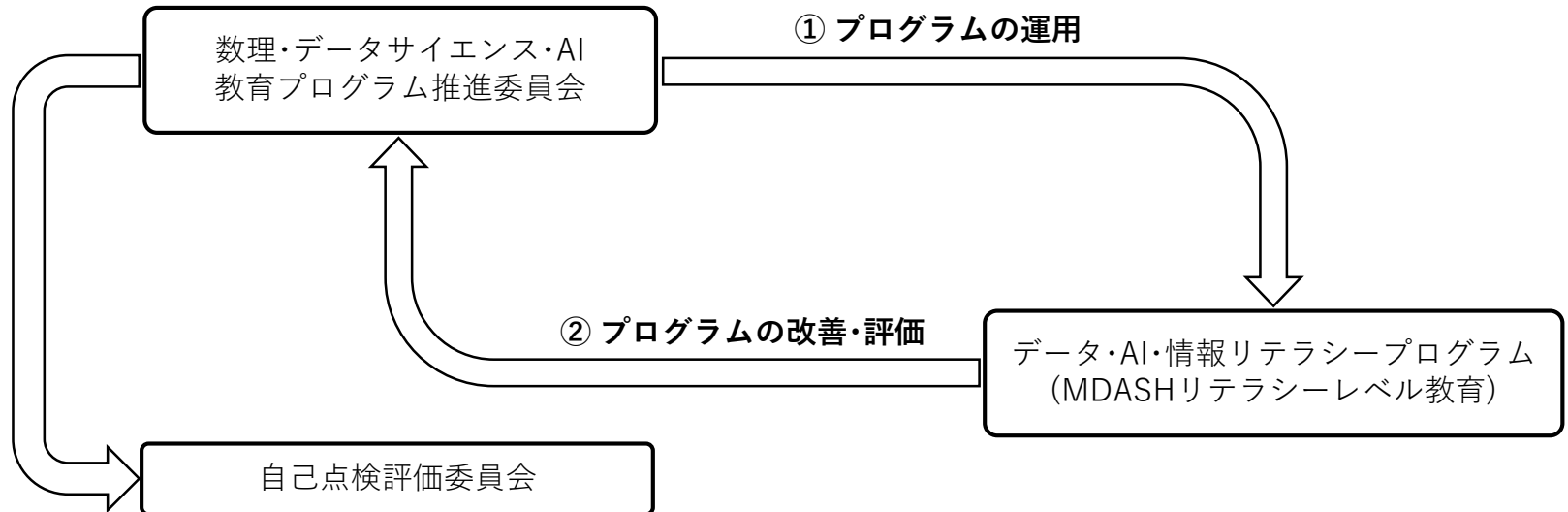
[プログラムに関連して開講されている科目の構成・修了要件]

全学科1年生対象(令和5年度以降)の必修科目である「人間と情報」が該当し、その2単位を取得することが修了要件である。

[身につけられる能力]

- ・多種多様なデータをもとに特徴を捉えて推し量ることができる
- ・最新の技術動向を理解し、デジタル化に対応することができる
- ・実社会とのつながりを意識し、課題に取り組むことができる

[実施体制]



大学等名	富山短期大学
教育プログラム名	データ・AI・情報リテラシープログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和 6 年度

実施体制に関する補足事項

教育プログラム該当科目「人間と情報」の様子



<https://www.toyama-c.ac.jp/news/002405.html>

経営情報学科以外の3学科は上の写真のように、学内の教室でスクリーンに投影される画像を見て講義を受ける。その様子を各学科の教員が巡回して支援する体制を構築している。講義担当者は近くのパソコン教室からzoom配信を行っている。経営情報学科の学生は毎週水曜日がオンライン授業日であり、自宅でzoomに接続して講義を受ける。全学科でノートパソコンを必携化している、「人間と情報」は令和5年度から全学科1年生を対象に前期開講の必修科目であり、MDASHリテラシーレベル教育を行っている。特にExcelを使う実習では、以下の身近な例を扱った。

[例1：GPAの計算]

- ・ Excelにおける演算の仕組みを通して、モデルやアルゴリズムの役割を理解させた。
- ・ GPAは個々の学生を評価する非常に重要な基準であり、それを意識させて学修指導を行った。

[例2：北陸新幹線の利用者数の推移] (2015年3月14日～2023年3月14日の糸魚川～上越妙高の利用者数)

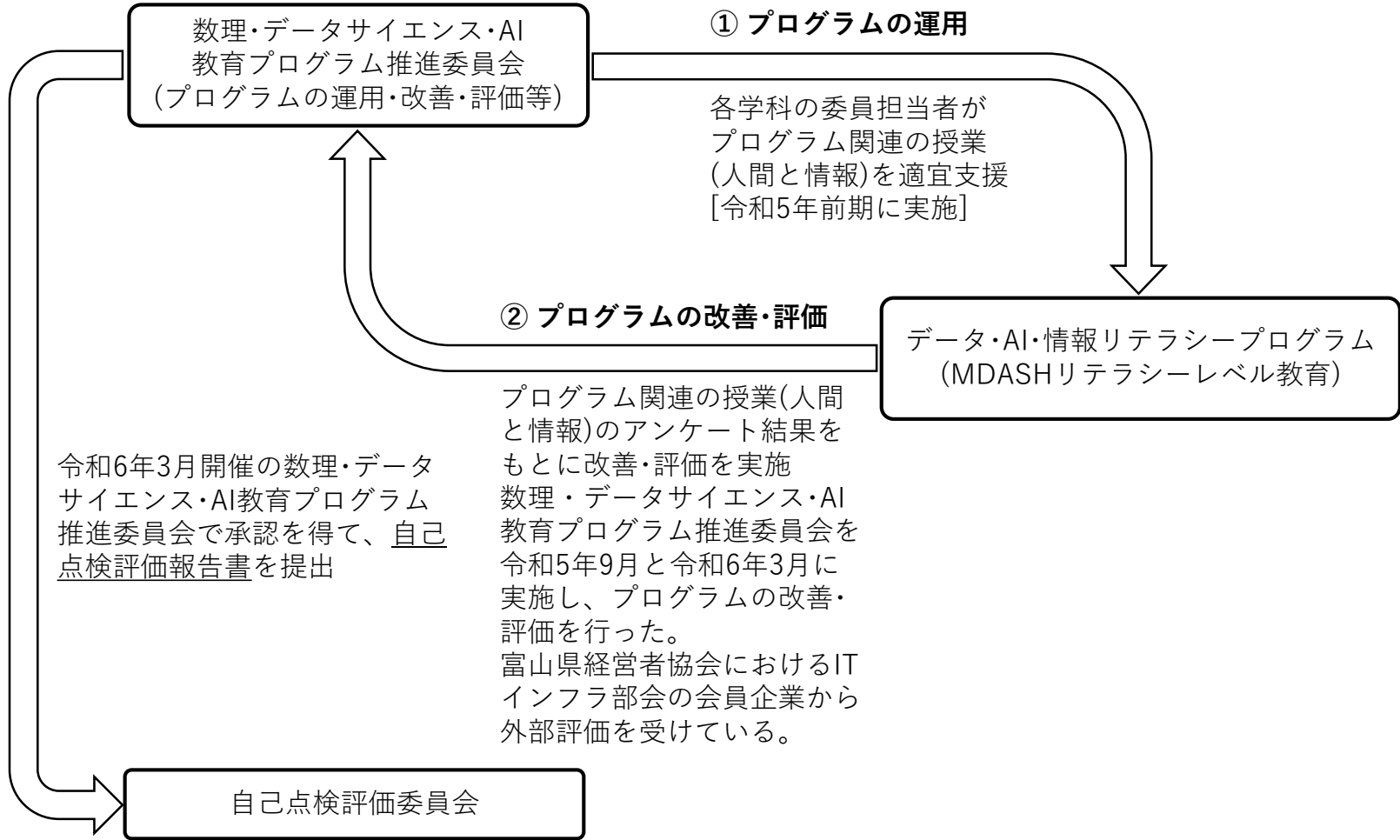
- ・ 変化率および成長率の計算方法を理解させ、折れ線グラフを作成させた。
- ・ 計算結果および作成したグラフをもとに考察させた。

※令和4年度後期から、数理・データサイエンス・AI教育拠点コンソーシアム(北信越ブロック)の会員校として認められている。

大学等名	富山短期大学
教育プログラム名	データ・AI・情報リテラシープログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和 6 年度

実施体制に関する補足事項



※下線部は <https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/tc-mdash.html> に掲載して公開